

「3・11 未来へつなぐ集会」の後に考えたこと

3月10日の「3・11未来へつなぐ集会」で、東日本大震災を「どう考えますか?」「もっと知りたいことは?」「どうしていきますか?」と話したところ、100名近くの子供たちが、提示したワークシートを持ち帰りました。今週、自分の考えを書いたワークシートが校長室に届けられました。子供たちの考えや思いに感動したので、ほんの一部ですが、紹介いたします。子供たちから大人が学ぶを実感しています。

私は「3・11未来へつなぐ集会」や3・11に関するテレビ番組を見て、今まで知らなかったことを知ることができた。私は、今まで東日本大震災について、親や先生などから今日たくさん教えていただいた。被害や復興については、知っているつもりだったのだが、そうではなかったようで、テレビでは知らないことをたくさん放送していた。原発事故によって、住めなくなった場所。避難している人たち。何兆円も使っている復興。避難している人たちの中には、泣いている人も居たし、ふるさとに帰りたと言っている人もいた。東日本大震災は、辛く悲しい出来事だったと思う。けれど、過去は変えられない。地震はいつ来るか分からない。しかし、被害を小さくすることや語り伝えることはできるはずだ。私は東日本大震災について教えていただいたことを伝えるとともに、正しい復興についても考えていきたい。(6年)

震災当時の記憶もないし、東京にいたから分からないけど福島から離れた東京でも強い地震があったから福島の方は、もっと恐かっただろうし、みんなの親は必死に私たちを助けようとしたと思う。福島の方は、みんな優しい。当時、原子力発電所事故で福島を見下したり差別したりは違うと思った。福島は、よいところばかり。今、復興が進んでいることはよいことだと思う。(6年)

震災の時、ぼくはまだ0歳だった。地震が来たとき、お母さんが全力で守ってくれた。その後、おばあちゃんの家で避難した。最初は1週間くらい水やガスが出なかったり、電気がつかなくなったりした。そんな時でも、みんなは僕を優先して、風呂に入れてくれた。それを聞いて思った。もし何かあったりした時に備え、いろいろな人を助けたい。(6年)

崩れた家や町は、どうやって元にもどしたのか。(2年)

チャレンジする・考えを持つ・表現する



震災時は、0歳で分からなかったけど、福島県民として震災のことをもっと知ることが大切だと思った。支援してくれた団体のことを知りたい。(6年)

こんなことが、もう起こってほしくないから、できるだけ東日本大震災について知って、それを次の世代へとつないで、次にこんなことがあったら、こうすればいいと教え、震災を防いでいきたい。さらに、そこから、次へ次へとつなぎ、この日本を守っていきたい。(6年)

震災が起こったとき、まだ、赤ちゃんだったから、赤ちゃんの世話をするのが大変だったと思った。校長先生が「お店に商品がなかった」と話していたので、赤ちゃん用品を買うのも大変だったと思うし、水や火が使えない中、世話をするというのを考えると、たくさん感謝したいと思った。また、原発事故によって、原発の近くの市町村が立ち入り禁止になった。今はだんだん除染作業が進み、たくさんの地域が住めるようになり、復興が進んでいる。だが、原発処理水の放出について、たくさんの議論がされている。中には、危ないから嫌だと言う人もいると思うが、流しても危なくないということを知ってほしい。まずは、震災や原発事故を体験した自分たちが処理水について知ることが大切だと思った。自分たちが知り、自分たちが発信することでたくさんの人に広がっていくのではないかなと思う。これからも復興のためにたくさん考えたい。(6年)

大変だと思った。でも、その大変を、もっと知るために、体験したほうがいいんじゃないかという気持ちもある。これから、未来へと、つないでいきたい。3・11を合い言葉に伝えていきたい。(3年)

東日本大震災で、たくさんの人が亡くなった。行方不明になっていて、とても悲しく、その時、自分が大人だったら助けたかったなと思った。親や先生に、その時の大変さをもっと話してもらって、感じ取りたい。今後発生した時は、すぐに避難して、命を守れるようにしていきたい。(6年)

震災前までは、大きな地震に対する危機感が薄く、対策などがあまりされていなかったのもあって、これだけ大きな被害になってしまったのかなと考えた。自然災害は、いつ起こるか分からないので、今のうちに自分でできる対策や避難場所の確認、どのような行動をとればよいか調べておきたい。被災した方のために、どんなことができるか、どうしたら犠牲者を守ることができるか考えていきたい。(6年)

福島県の浜通りで、まだ立ち入り禁止のところがあるのを初めて知った。結構広い範囲だったので、残念に思う。早く入れるようになってほしい。避難した人は、今頃、戻ってくるのかなと思った。何日も地震が続いたので、家には何日も生きられるように保存食や懐中電灯など用意しておく。(4年)

東日本大震災の時は生まれてなかった。その時多くの子供や大人が死んじゃったけど、他の県や国から支援物資が届いたりして、その時は、すごく大変だったと分かった。もし、結婚したら、自分の子供に話して伝えていきたいと思った。もし、他の県でこんなことがあったら、募金など、できることをしたい。(4年)

親に話を聞いたら、立てないぐらいで、まわりのブロック塀が全部崩れ落ちてきたと言っていたので、すごく恐怖を感じた。もう、絶対起きてほしくないと思った。(4年)

東日本大震災の時は、まだ生まれていなかったけど、「未来へつなぐ集会」をやって、どれだけ大きい地震だったのか、どれだけ犠牲者が出たのかなどを知った。大切な人を失った人も悲しいし、自分とかかわりがない人でも、亡くなってしまったら悲しいし、命は、とても大切だということを、今日の集会に参加して思った。大地震が起きた時のために、物をそろえておいて一日一日気を付けたい(4年)

ガスや電気が出なかったりしたから大変だったと思う。大変なことを1週間も我慢したんだな。避難訓練をもっと大切に真剣にやりたい。(6年)

東日本大震災で亡くなった方、家族を失った方の気持ちを考えていくことが大事。いつこのような大地震などがあるか分からないから、対策をして、自分には、このようなことはないと思わず、考えることが大事。(6年)

私が生まれて、大地震、津波、原子力発電所事故が起こり、1万人以上の方が亡くなり、2000人以上の人が行方不明になり、とても悲しい出来事があった。自然災害のため予想不可能ということで、どこに逃げるのか、食料品などをストックするといった対策が必要になってくると考える。また、3月11日にニュースを見ていたら、お母さんやお父さんが亡くなってしまった人、身内の人が亡くなってしまったという方が、たくさんいた。もし、私の家族が東日本大震災で死んでしまったら・・・と考えると、とても悲しい。でも、また、いつか震災が来るのかわからないので、今できる行動をしていきたい。(6年)

東日本大震災は、親に聞いたり、テレビで見たりしていたけれど、どれほど怖かったかは分からなかった。実際の写真を見てみると怖さがよく分かった。地震は、いつ起こるか分からないけれど、日常で災害に備えておくことがとても大切だと思った。(4年)

東日本大震災はよくテレビなどで津波や大地震の動画、原子力発電所事故のことなど見る。とてもひどいことだったんだなと思う。地震は、いつ起こるか分からないから、いつ起きても大丈夫なように、防災グッズや防災バックなどを準備することは大切なことだと思う。僕の家では、まだ準備していないので、今後準備していきたい。(4年)

原子力発電所が、爆発したときに、防護服を着て作業をした人たちが、すごいなと思った。他にも、避難した人たちの食料をくれた人たちも、すごいと思った。理由は、大地震の後に、すぐ津波があつて大変だったから、ショックの状態でも、人助けができるなんて、すごいと思ったからだ。予想外の地震が起きた時のために、備えておきたい。(4年)

こんなことが日本であったなんて、信じられない。その時は、まだ赤ちゃんだったから、記憶にはないけれど、ネットの動画や本、画像で、見て恐怖を感じた。12年経った今でも、家には帰れない人がいて、原子力発電所もなおってなくて、東日本大震災のような地震は、もう二度と起こってほしくない。東日本大震災では、多くの人が犠牲になった。なので、大切な人生と失った人の分まで、しっかりと地震対策をしていきたい。でも、東日本大震災のおかげで、国民の防災意識は高まったのではないかと思う。もしも、ぼくが大人になって、海の近くに住むときは、この地震の教訓を生かして落ち着いて避難できるようにしたい。(6年)

震災の話聞いて、あらためて残酷だなと思った。この東日本大震災で亡くなった人、苦しんだ人がたくさんいたんだなと思い、これから生まれてくる人や、知らない人などに伝えていきたいと思った。(6年)

生まれてはいたけど、記憶がなくて分からなかった。東日本大震災の映像を見ると、津波で、家や車が流されたり大地震で家の中の皿やテレビが倒れて壊れたりするのを見た。多くの大事な命、家族、友達、そして町、村、ふるさと、みんなそれぞれ失い、辛かったと思う。私が、この事を深く考えると当時、不安、怖さ、パニック、恐ろしさ、という言葉が沸き上がってきた。二度と、こんな3・11のような大地震がないように祈りたい。(6年)

このようなことは、また起こるから、東日本大震災のことを小さい子の教えていき、その経験を生かす。地震などバーチャル体験をさせて、自然の怖さを多くの人に知らせる。防潮堤を原子力発電所の前や横に設置することで津波を防げると思った。(6年)

あの大地震があったから、家で大きなものの下に耐震マットをつけるようになった。それは、去年の大地震でも活躍していて、それぞれテレビが倒れずに済んだりした。そのようなものを増やしていけたらなと思った。(4年)

東日本大震災についての事実は知っているけれど、実際どんなことを考えたか、感じたか知りたい。恐怖以外の感情があったか知りたい。(6年)

被害にあった人たちを考えると心が痛い。これからの対策など、原因を調べたい。これからも、3・11の日に、しっかりと敬いたい。(6年)

僕が生まれて一年くらいだったから、覚えていないけど今回、校長先生の話聞いたから、辛い思いをした人の気持ちが分かった。特に、原子力発電所が爆発して風評被害が出てきたところが、最悪だと思った。あと、津波で電車がつぶれていたことにびっくりした。このことを絶対忘れずに生活したい。(6年)

東日本大震災を経験していないけれど、今日の写真を見たり、話を聞いたりして、すごく大変だったことを知った。お母さんも、すごく大変だったと言っていた。(4年)

2011年の大震災は、道路や家などが崩れていた。僕は、2013年に生まれたので、分からなかった。土砂崩れや津波などで多くの人が死んだから、地震は怖いと思った。2011年3月12日には、発電所の機械が壊れて事故になって、多くの人が体育館や頑丈なところに避難した。ぼくは、それを見て「そうだったんだな。」と思った。(4年)

東日本大震災は、とてもすごい地震だということが分かった。これからは、未来にもっと頑丈な建物が、できるといいと思う。そして、これからは、自分の命、みんなの命を大切にしていきたいと思う。僕が一番大切なのは、「命」だと思う。(4年)

トラウマにすごくなるし、起きた後も家が津波に流されたり、食料がなかったりして、すごく不便だし、家族や親せきが死んでしまったりして、すごく悲しいと思う。今の世代や次の世代に、どんなに怖かったかを伝え、福島は危険じゃないと教えた。(4年)

母の話によると、泉コープ交差点あたりの地面や水道管が壊れたり、断裂して車が一台落ちたりしたそう。私は、地震で、そんな恐ろしい被害があると思うと怖くなった。電話もつながらないから、家族などとはぐれた人は、どう過ごしていたのかなと思った。災害が起きた時に備えて、いろいろ決めて準備して、いつでも逃げられるようにしておけば、はぐれることも少なくなると思った。(4年)

<自主学習で取り組んできた内容> 6年